

---

## 会報 2015年7月号



日本ニュージーランド協会 (関西)  
New Zealand Society of Japan ,Kansai

創立 1970 年

---

2015年度は、年度当初から不手際があり、会員の皆様にはご心配・ご迷惑をおかけして申し訳ございませんでした。5月30日の臨時総会とその後の理事会で今後の運営につき再度ご検討いただき、お蔭様で軌道に乗せることができるようになりました。

詳細は、同封しております書類の通りでございますので、ご一読をお願い申し上げます。

尚、より詳しい昨年度の収支資料をご希望の方は、事務局へお問い合わせください。

本年は、創立45周年を迎えておりますが、皆様の更なるご指導・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

今後の行事等へのご提案は事務局までお寄せいただきますよう重ねてお願い申し上げます。

会長 石井久行

---



ラム&ビーフ例会



牧場風景



善き羊飼いの教会

事務局：大阪市西区江戸堀1-23-26 西八千代ビル3階C  
N.S.コンサルタント内 電話：(06) 6607-2112  
HP：<http://nzsocietykansai.com>  
E-mail：[nzsjk1970@yahoo.co.jp](mailto:nzsjk1970@yahoo.co.jp)

---

## 第254回例会のご案内

### ビア・パーティ 千里阪急ホテル

大阪万博の年、1970年11月に当協会は設立されましたが、千里阪急ホテルも同年3月にオープンしました。NZパビリオンは、南十字星をイメージした一辺15M四方の山小屋風の5棟の建物、野外劇場もあり、カフェ・レストランのラム肉の塩漬け燻製、アイスクリームが評判でした。

「ニュージーランドとニュージーラ人」をテーマにした展示やイベントを覚えておられる会員も多いのではないのでしょうか。当時の様子は、NZ国立フィルム・ユニットのアーカイブでも見ることができます。当協会と千里阪急ホテルは今年45周年を迎えていますので、これも何かの縁ではないかと思い、ビア・パーティを行うことになりました。カジュアルな服装でお気軽にご参加ください。

- ・ 7月21日(火) 18時～19時30分
- ・ 千里阪急ホテル プールサイド・ビアガーデン  
バイキングスタイルの料理と多彩な飲み物  
フラダンス・ショー

千里中央駅から徒歩5分

(詳細：同封パンフレット参照)

参加費：3,800円 (ホテル会員価格)

(雨天の場合、室内になります)

18日以降はキャンセル料必要

締め切り：7月17日(金)

## 今後の行事予定

- ・ 11月14日(土) 五條の柿狩り  
太津会員の柿農場訪問

- ・ 11月23日(月) お昼  
45周年記念行事 神戸外国倶楽部  
イベントへのご提案がありましたら  
7月末までお願いします。

次号で詳細はご案内しますが、多数のご参加をお願いします。

## 第252回例会報告

### タウマルヌイ高校と共に祈った ANZAC100 周年

■NZ 北島の中心に位置するタウマルヌイ NZ 北島の地図をご覧ください。真ん中にタウポ湖があります。そこから西へ50kmほどたどるとタウマルヌイ(ヌにアクセントがあります)が見つかります。大阪府と京都府を足したほどの面積があるルアペフ・ディストリクト(県)の議会所在地です。人口は県全体で1.2万人、うちタウマルヌイは最大で5千人です。県には二つの国立公園があり、一つは世界自然遺産と文化遺産のダブルタイトルに輝くトンガリーロ国立公園、もう一つはワングヌイ(川)国立公園です。近年タウマルヌイは数日にわたる川下りを楽しむRiver Tourismの起点として知られています。町はオークランドとウェリントンを結ぶ鉄道の間接点にあたり、歴史的には鉄道の町として知られていました。NZでは誰もが知るフォークソング「Taumarunui on the main trunk line(タウマルヌイは鉄道幹線上に)」に歌われています。尚、タウマルヌイの人たちはあまりこの歌を好きではないようなので、彼らとこの話題は避けた方が良さそうです。

### ■タウマルヌイとの出会い

1992年、NZに姉妹都市を持ちたいと希望した兵庫県日高町(現在は豊岡市)はNZ大使館よりルアペフ県を推薦されました。私は出張ついでにルアペフに寄りレポートを作成することを依頼されました。県の職員ブルース君やワークマン市長が自ら車で案内してくれたマウント・ルアペフの存在感は圧倒的でした。日本へも輸出されている甘くてみずみずしいにんじんをオハクネの町で丸かじりしました。

1994年兵庫県主催「但馬播磨の祭典(各市町村が国際交流の成果を披露しました)」で、日高町は「クライストチャーチ・カンタベリー博物館展(モア展、マオリ民具展)」と「タウマルヌイ高校マオリ文化クラブのハカ公演」を主催しました。カンタベリー博物館の展示品のNZからのクーリエは、当時クライストチャーチにワーキングホリデーで

滞っていた協会会員の永田美夜子さんが担当しました。モアの骨（本物！）やマオリの民芸品について日本の税関へ説明するのがたいへんだっただろうです。この祭典で日本語教師イアン・フォーロンと出会い、翌年からタウマルヌイ高校の日本語履修学生のための日本体験ツアーのお手伝いをするようになりました。フォーロン先生とは20年を超える付き合いということになります。

#### ■タウマルヌイ高校との交流

ルアペフ県にはタウマルヌイ高校とオハクネ高校の2校があります。日本でいう中学1年から高校3年までが在学しています。タウマルヌイ高校の現在の学生数は約380名です。

この広大な面積をカバーしているので寄宿舎があります。グランドの面積はNZ最大です。毎年Year Bookをいただくのですが、そこに見る生徒たちの自由に創造性豊かな学校生活には、集団行動と規律を重んじる日本との文化の違いを感じます。

日高町とタウマルヌイとの交流の関係で町民ツアーの添乗員として2回の他、プライベートや打合せで数回タウマルヌイを訪問しました。また隔年で相互訪問する両町の学生ツアーのお世話をしてきました。そして1997年からはタウマルヌイ高校日本ツアーの学生との交流会をNZ協会の例会としてきました。1998年にはその縁で日高町国際交流協会に私たちの日高町1泊例会をホストしていただきました。

2000年には琵琶湖畔で滋賀県のホストファミリーと一緒に63名の大バーベキューを行いました。2007年からは大阪歴史博物館での連風揚げを恒例とし、2011年、2013年には会員家庭数軒が彼らのホームステイを引き受けました。会員のタウマルヌイ訪問は、桑原耕治さんが2010年に乗馬を目的にタウマルヌイ高校教師の家庭で3泊のホームステイ、また同年、石井久行さん井上佳久さんがドライブ旅行途中タウマルヌイ高校へ寄りました。

彼らの日本ツアーは北海道から沖縄までの超強行スケジュール、東京、鎌倉、大阪、京都、姫路、広島、福岡はいつも旅程に入っています。期間は

約1ヶ月で、うち1週間から2週間はホームステイが組み込まれます。

宿泊費は1泊1000円から3000円くらいの予算です。広島では「原爆の子の像」に折鶴を捧げています。

#### ■2015年の日本ツアー

2013年に彦根の高校生5名のタウマルヌイ高校での10日間スクーリングをお世話しました。フォーロン先生は「これだ！」と思っただけで、彦根での同様のプログラムを熱望しました。受入先の都合もあり、初めての桜の季節の日本ツアーとなりました。彦根総合高校での8泊のホームステイとスクーリングは思った以上に素晴らしい体験だったそうです。私はその1日を見学に行きました。午前中は彼らだけで日本語クラスをしていました。先生の話聞く授業ではなく、NZらしく生徒が主役として参加する授業でした。15歳の彼らの日本語単語力はかなり高く、押しピン、ホッチキス、黒板消し、畳、戸棚等の単語がどんどん出てくるのに驚きました。巧みにゲームを盛り込むことにより、興味を掻き立て、集中力を持続させていました。

ツアー前半に「いつも金閣寺と清水寺であきあき」とフォーロン先生の愚痴を聞き、嵐山へ案内しました。後醍醐天皇や足利幕府の話をしていて、彼らの日本の歴史への無知と興味を知りました。日本の歴史の簡単な入門書が無いそうです。小学生向けのマンガ日本の歴史をタウマルヌイ高校へ寄贈することを思いつき、カタログを見せたところ大歓声だったので、今年6月刊行予定のものを予約しました。



神戸港

■4月25日 ANZAC100周年の

「神戸 WALK 例会」この日は NZ とオーストラリアの祝日 ANZAC DAY でした。しかも第一次大戦に ANZAC (AUS, NZ ARMY CORPS 合同軍) が初めて参戦、トルコのガリポリ上陸作戦で多大の犠牲を出した日からちょうど 100 周年にあたります。神戸港クルーズの船上で簡単な NZ 日本合同 ANZAC DAY セレモニーを行いました。出席者は ANZAC DAY を象徴する赤いポピーを胸につけ、ANZAC ビスケットをいただきました。造花の赤いポピーは永田美夜子さんの労作、ビスケットは前夜、我が家で焼きました。このビスケットには伝説があります。遠いヨーロッパの戦線にいる父や夫に送るためには日持ちしなければなりません。そこで牛乳と卵は使わないレシピが考案されたとか。近年その薬効が注目を集める燕麦が材料の 1/3 を占めます。日本側参加者は 3 月に NZ で 100 万枚発行されたばかりの ANZAC100 周年記念 50 セントコインをプレゼントされました。片面には君主エリザベス女王、片面には 2 人の兵士 (AUS と NZ を象徴?) とシルヴァーファーン、そして The Spirit of ANZAC. We will remember them と刻まれています。協会は RSA (退役軍人会) タウマルヌイのバナーとルアペフの写真ポスターをいただきました。

このセレモニーに神戸港の船上を選んだのには訳があります。最初の ANZAC 船団 38 隻 (うち 10 隻が NZ で、将兵 8574 名、軍馬 4000 頭を輸送) をウェリントンからスエズ運河の入口アデン・アラビアまで護衛したのが日本の巡洋戦艦「伊吹」でした。護衛艦が無いので、出発できなかった NZ 義勇軍のため、英国政府の依頼により (日英同盟がありました) 日本が当時の最新鋭艦を派遣したのです。伊吹の航海日誌には「午前 5 時ウェリントン入港 (クック海峡 1914 年 10 月 13 日、火曜日、晴)」「午前 6 時輸送船隊出港西航す、惜別の情尽きず (アデン、1914 年 11 月 26 日、水曜日、晴)」と記されています。

1 ヶ月と 10 日ばかりの任務でした。伊吹はその 10 年後、1924 年 12 月、ワシントン軍縮条約により、神戸の川崎重工造船所で解体されました。日本海軍はスクラップから 2 隻の 1/60 模型船「伊吹」(全

長 190 cm、重さ 100 kg) を制作、「友情の証」として NZ、AUS 両政府へ贈りました。AUS では首都キャンベラの戦争記念館の ANZAC ルームに今も展示されています。NZ ではウェリントンの海事博物館に展示されていましたが、1999 年博物館の改編によりテパパ博物館へ移されそれ以来倉庫に眠っています。

ANZAC と伊吹のために、私は伊吹終焉の地である神戸港で 100 周年の祈りを捧げたかったです。セレモニーの後、同行のタパー先生から、とても意義のある素晴らしいセレモニーだったと言っていました。

2009 年 10 月 29 日、来阪中の NZ のキー首相に「ANZAC100 周年には伊吹をオークランドの戦争博物館に展示してほしい」と直訴しました。翌年に希望がかないそうだと東京の NZ 大使館から連絡がありましたが、その後は進展なく残念に思っていました。ところが、この例会の翌々日 NZ から朗報が届きました。

オークランドでの ANZAC 展で伊吹が展示される見込みだそうです。「ホビット」のピーター・ジャクソン監督らがプロデュースする 3 年間の展示だそうです。詳しいことが分かりましたら皆様へご報告いたします。

参加者は日本・NZ 草の根交流を楽しみました。元町から港まではペアーを組み個人的に案内、ANZAC セレモニー、港でのハカ、王子動物園 (高校生たちは本物のパンダを見たかった!)、お別れの校歌と、暑いぐらいの快晴のもとおかげさまで意義ある例会を行うことができました。皆様へ感謝いたします。

(呉橋 真人)

参加者 27 名

Ian Forlong, Michele Tupper, Morghan Harper, Angus Long, Megan Wood, Shania-Kaye Tadman, Tanira Hepi, Puahaere Hepi, Danielle Graham, Ronald Adams, 石井久行 加藤進 貴志康弘 喜田靖夫 呉橋真人 外山純 永田美夜子

根来和博 馬場文 馬場海 林園子 林弘子  
平峯忍 檜山貴志 檜山良枝 檜山怜菜 松元昇  
(敬称略)

## 第9回目となるNZラム&ビーフ例会

2月23日いつもラム肉を特別価格で提供してくれているANZCOフーズが伊藤ハムに買収されたというニュースにびっくり、「今年のラム肉は大丈夫ですか」と、ANZCOへ問い合わせたところ、「体制は変わりません、ご心配なく」という返信をいただきました。すぐに会長へ転送し、今年は5月何日ですかとお訊きしたところ、今年は恒例のラム肉例会は行わず、代わりに秋に万博でバーベキューをするかもしれないという返信。会場の職員の態度が悪い、4月、5月に例会が重なるからといった理由で正式には4月2日の理事会でどうするか決定するとのことでした。たとえ4月2日になってから実施と決まっても会場がなければ不可能です。すぐに会場をチェック、5月の土曜日では16日だけ空いていたので予約し、8年間連続で行ってきたラム肉例会の伝統を途絶えさせないでほしいと理事メンバーへお願いしました。幸い理事会の理解を得ることができ、呉橋、永田が準備を担当することになりました。今回は松元副会長夫人を中心とするチーム・パヴァロヴァが復帰、また毎年この例会だけはと楽しみにしている会員も集まり32名の盛会をなりました。



シェフの皆さん

ラムは6種類調理しました。どれも上手にレシピ通りできました。焼きすぎず、また出来立てを食べようという方針でしたので、完成即試食。手間がかかるレシピを担当したチームにはお気の毒で

した。接戦でしたが人気順にメニューを列記します。

1. ローマ風 酢とアンチョビを使用しました。(イタリア人の勧めでワインビネガーではなく米酢を使用)
2. みそ大葉和風 ANZCO のホームページレシピです 9年連続上位入選。
3. ブルーチーズソース ブルーチーズと赤ワイン、カシスリキュールを使用、こってりと甘い。
4. あつあつのラムステーキを醤油で シンプルですがこれぞ日本人好み。
5. アイリッシュシチュー アイルランドの国民食。セロリとラムが良く合いました。どこがシチューやねんというつつこみがありましたが、英語では煮込みをシチューと言うそうです。
6. オレンジソース オレンジの甘味と酸味がさわやか、夏向け。他に大量のビーフ(ANZCO ご自慢のオーシャンビーフ)はローストビーフに。和牛至上主義の関西人の舌にも美味しいと評判でした。またスペインのヘススさんが大奮闘、全員分のスペイン風オムレツを林進さんと一緒に作ってくれました。本場の味は最高でした。来年もぜひお願いします。チーム・パヴァロヴァは既にパヴァロヴァを焼いてご持参、ラム肉の脂肪取り、カット、ヘススさんのじゃがいもスライスと大活躍をいただきました。久しぶりのパヴァロヴァはなめらかで上手にできていて、こちらも本場の味でした。今年は野菜の異常な高騰に驚きましたが、カシスリキュール、ワイン、合わせみそ等をご提供いただいたこともあり、なんとか赤字を出さずに済みました。

今後もこの例会の伝統が続き会員の皆さんがお友達とご一緒に「5月は神戸でNZのラム&ビーフ」を楽しまれることを願っております。

(永田 美夜子)

参加者 32名

ヘスス・アンヘル 石井久行 井上佳久 大矢昇  
興津芳子 奥野佳恵 貴志康弘 北野和夫  
呉橋真人 肥塚公子 酒井佳代子  
佐藤真砂子<sup>☞</sup>友人 宗佐保 永田美夜子  
中村重夫 西川精一 根来和博 林進 林園子



埴幸子 日高隆義 平戸ヨウ子 平峯忍 松元昇  
松元美智子 森山美代子 山内龍男 山田輝子  
山田康子 山田凜子 和田玲子 (敬称略)

## ニュージーランド北島(東海岸) 旅行記【その2】

今回は、ルアトリアまでのことを書かせていただきました。今回は続きになります。これも当地で撮った写真を見ながら思い出して書きます。2002年3月28日の日付があります。ルアトリアを出発する前に町を見て回りました。中心部から少し離れた所に「TE WAPU ONGATI POROU」と看板がありました。マオリの彫刻の工芸場と美術館のようでした。工房内に入り、見学をしました。マラエ(マオリ族の集会場)にある彫刻作品を幾種類も作っているようです。文化の伝承を大切にしていると感じました。ルアトリア(ここは少し内陸部にある)から南下して、トコマル・ベイ(湾)に着きました。とても広い砂浜です。前回、当協会の川瀬勇(初代会長)が、1930年代ルアトリアで雑貨商をしていた国岡さんと親交があったことを書きましたが、このトコマル湾の町に、当時、もう一人の日本人が住んでいました。『ニュージーランドの素顔』の160ページに詳しく書かれています。茅野さんという方で、このトコマル湾で理髪店をしていました。ドクター川瀬の著書には、この出会いが書かれています。当時、バスで旅行していて、運転手と2人きりになった時、運転手がこの近くに日本人が住んでいるから、「会いたいか」と言われ、出会いと10分間の会話があったことが書かれています。当協会員であった田辺真人氏が後に調査したところ、ドクター川瀬が留学していたころ(1930年代)、日本から遠く離れた地であるニュージーランドに何と4人の日本人(NZ国籍を取っている方もいます。)が、数奇な運命によって暮らしていました。私はこの事実の魅力に魅かれます。ここではマラエも訪れました。

トコマル湾を经ち、海を時々望みながら、幾つもの丘を越えて車を走らせます。更に南下するとトラガ・ベイ(湾)に出ます。この湾もとても広い

砂浜です。トラガ湾には一つの観光スポットがあります。石灰岩でできた崖の傍らに栈橋があります。立て看板には、「TORAGA BAY WHARF」との見出しに説明が写真付きでされています。長く海に突き出た栈橋を歩くことができます。昔の跡でしょうか、栈橋には線路が残っていました。前回書いたように、この辺り北島東海岸が映画『クジラの島の少女(Whale Rider)』(2002年)の撮影場所です。

さらに南に車を走らせると、ギズボーンに着きます。この地方の中心都市で、人口約3万4000人の町です。夕刻に着いたので、宿を予約してから、川沿いの公園で過ごしました。夕刻の公園には、子供連れの家族が遊んでいました。ニュージーランドの町には必ず、人々が憩うことができる広い公園があります。宿は町の中心部から少し離れた所だったと記憶しています。翌朝、キャプテン・クックの像が建つ丘に行きました。(車の登り道のすぐ横?だと思います。)ここからは、海の方(ポバティ湾)と市街地の両方が見渡せます。博物館やアートセンターも訪れました。



ギズボーン市街

小鳥が木々にやって来ます。2つの川(タルヘル川・ワイマタ川)が町の中で合流して、ツランガヌイ川となって海に流れます。大通りには道路の中央帯に時計塔が建っています。この町にはマオリ系の人が多く住んでいます。ギズボーンはマオリの雰囲気を感じさせる都市です。私は再びこの町を訪れたいと熱望しています。

ここからは、次の町ワイロアに向かいます。途中の道路(国道2号線)沿いにモレレ温泉があります。看板に気を付けて車を走らせます。「MORERE HOT SPRINGS」というプレートが道沿い

に出ていて、駐車する広場が道から少し入った所にあります。山の中へ5～10分程細い道を歩いていくとプール（5m×5mぐらい）のような温泉がありました。屋根があり、近代的な造りです。深い森の中で私一人で湯を楽しみました。木の上には、大きな鳩（ニュージーランド・ピジョン）がやって来ました。下から見ると白い腹部が印象的です。喉や羽・尾の部分は青や緑色でピカピカの艶があります。モレレ温泉を经ち、ワイロアに向かいます。ここは、上流にあるワイカレモアナ湖から流れてくる川と海（ホークス・ベイ）が交わる平野にできた町です。町の名 WAIROA は、WAI は「水」で ROA は「長い」という意味です。

ここから北上して、ロトルアの方に向かいます(国道 38 号線)。途中のワイカレモアナ湖周辺は、広大な自然国立公園になっています。登りの山道が続きます。川に架かる橋は、セメントでできていますが古いものです。途中で大きな水力発電所の建物があり、1929年にできたと建物に彫っています。途中からは砂利道になります。原生林の中を車で登って行くと、大きな湖が見えてきました。

「LAKE WAIKAREMOANA」ワイカレモアナ湖です。この湖は北島では水深が一番の湖です。



左：ワイカレモアナ湖と自動車道

ハイキング用の山道もあります。山の中腹にある道から崖下に青い湖を見ながら運転しますが、スピードを極力抑えました。ブレーキをかけても砂利でズルズルとスリップをしてしまうことがあるからです。道の湖側には、所々危険な箇所にセメントでできた壁（高さ50cm位）が造られています。時々、車を停めて鳥の声を聞き、森の空気を吸い込み、湖を遠くまで眺めました。ここは、ニュージーランドの中でも最も自然の森林が広範

囲に残された場所（国立公園）だそうです。

ワイカレモアナの「MOANA」とは「海」を意味します。ムルパラという集落に出た時は、かなり時間が過ぎていました。この日はロトルアまで行って宿を取ったと思います。ロトルアは有名な観光地ですが、ニュージーランドに住むならロトルアがいいと思っている方々が多いのではないかと思います。ロトルア湖が見える自然豊かな町です。彼方此方から湯煙が上がり、温泉が毎日楽しめるのは正に楽園だと思うのです。ROTORUAのROTOは「湖」、RUAは「2番目」という意味です。北島で、タウポ湖が1番大きく、ロトルア湖は2番目に大きいことから来ています。次の日はオークランドまで戻りました。

（貴志 康夫）

## カナディアン・アカデミー訪問記

私は昨年12月に石井様の紹介でニュージーランド協会に入会させていただきました。

3月号の会報で「カナディアン・アカデミーで世界の料理、音楽、ゲームが楽しめるお祭りがある」という小さな記事に目が留まりました。日本に暮らす外国人の人たちが通う学校として、カナディアン・アカデミーの名前は知っていましたが、これまで接する機会がなかったので、大変興味を持ち、小6と中2の孫二人を連れてこのイベントに参加することにしました。何人ぐらいが集まるの？子供連れで大丈夫かな？・・・などと思いをめぐらしているうちに心配になり、学校へ問い合わせをしたところ電話が繋がらなかったため、当日、不安な気持ちのまま学校へと向かいました。学校に近づいてくると、あちらこちらで外国人の姿を見かけ、学校に入るやいなや、ゲームをしている子供たちがいたので、ほっと一安心。イベント会場となっている体育館に入ると、広い会場に国別の料理がずらっと並んでいます。

中庭では、韓国の太鼓の合同ライブが賑やかに演奏され、人があふれかえり、熱気ムンムン。日本にいながらにして、これだけ多くの外国人に囲まれたのも初体験で、会場に流れるアナウンスは全て英語・・・。家からわずか40分、飛行機にも

乗らずに突然外国の地に降り立ったような不思議な気分になりました。少々、雰囲気には圧倒されながらも、私は人気のエスニック料理を、孫たちはハンバーガーやソフトクリームを楽しみました。カナディアン・アカデミーの生徒たちは、欧米、アジア系など様々な国の子供たち約600名で、イベント出演のユニークな衣装をまとった姿もあり、また、ゲームでは、子供たちも係りをつとめていました。

現在、ニュージーランド人の生徒は5名と聞きました。いまどきのゲームセンターの機械ではなく、何となく昔の露店を思わせる手作り感がなんとも新鮮でした。そして、英語で名前を聞かれた孫が、物おじもせず、しっかり英語で答えていたのにもびっくり。この日は、異文化体験を大いにエンジョイし、とても充実した孫孝行の一日でした。ニュージーランド協会に入会して、私の知らない世界をいろいろと見せてもらえそうで、今後も楽しみにしています。

(北川 喜久子)

## 酪農の衰退 若者集める NZ 流に学べ

7月に「ニュージーランド (NZ) ・北海道酪農協力プロジェクト」が発表された。NZ 政府が道内4戸の放牧酪農家に技術者とコンサルタントを派遣して調査分析とアドバイスを行い、放牧経営の指標を作成する。海外の政府が直接、農家の指導に当たるのは極めてまれなことだ。日本と NZ 政府は、生乳生産量が20年前は共に年間860万トンと肩を並べていたが、昨年度は日本が745万トンに減少する一方、NZは2千万トンに迫る勢いである。なぜこのような違いが生まれたのか。NZでは、半世紀以上前に合理的な営農システムが確立した。大きな圃場に長期間牛を放しておくのではなく、圃場を電気牧柵で区切り、毎日牧区を替えていく集約放牧が実践された。短い牧草高栄養で穀物を不要とし、年間放牧で牛舎もいらない。省力的な搾乳場も簡素ながら早くから整備された。さらに春から夏に伸びる牧草を産後の牛が食べられるよう分娩を春先に集中させる季節繁殖は、乾乳期となる冬の農閑期を作り、長期休暇を可能とした。

それに加え、酪農民でも夕刻には仕事を終え、生活を優先する作業スタイルは若者を多く集めている。一方、日本では年間を通した繁殖と生乳生産が、酪農民の年中無休を作りだした。

機械化や立派な施設は規模拡大を可能にしたが、長時間労働と負債の増大につながった。

関税ゼロの輸入穀物の多給は安価な時代には多大な利益をもたらしたが、高騰すると裏目に出た。農協も販売手数料を得るため、飼料が売れなくなる放牧には否定的だった。

だが、日本でも1990年代後半に NZ 方式を導入した北海道足寄町旧開拓農協地区では8年間でコストが2割下がり、所得も増えて後継者が戻っている。道内では新規参入者の多くが放牧酪農を実践しており、道外でも入会牧野や耕作放棄地などを使って導入可能ではないか。NZ で合理的な営農システムを築くことができたのは、少ない人口の下、いかに省力化するかを絶えず追求した結果である。国の行財政改革で補助金がほとんど無くされたこともあり、日本の4分の1という低コスト酪農の実践で生き残りを図ってきた。逆に日本では手厚い補助金行政が推進されて高コスト体質となり、酪農が衰退しているというのは皮肉な結果であろう。貿易自由化など将来への不安から離農者が増える中、納税者から支持される低コストで、かつ若者から支持されるゆとりある営農システムの構築が急がれる。

(荒木 和秋 酪農学園大学教授)

2014年8月24日朝日新聞 私の視点より  
荒木先生は、リンカーン大学の元客員研究員

### 会報へのご寄稿お願い

NZに関する旅行記・随想・HP紹介などのご寄稿をお待ちしています。

### 本のご紹介

「ニュージーランド 真夏の聖夜の旅」  
黛まどか著 東京書籍発行 俳人の感性が捉えた  
楽園の美しさを写真・文章・俳句で紹介。



## NZ ニュース・スクラップ

### ・アジアに対するニュージーランド人の意識調査（4月）

ニュージーランド人対象に実施されたアジア諸国やアジア人への意識調査で不動産価値の高騰に関してはアジア人が要因だとの意見が多かったものの、全体的には肯定的な結果となった。

アジア・ニュージーランド財団が行うこの意識調査は20年、毎年続いており、ニュージーランド人から見たアジア諸国、アジア人の存在や、特にアジアがもたらす将来のニュージーランド貢献度について現地の人々がどう思っているかを知ることが目的である。その結果、8割の人が母国の将来のためにはアジア諸国の存在が重要だと考え、そしてアジア諸国との文化や経済の繋がりの発展も大切だと考えている。又、9割の人がこれから10～20年はアジア諸国と良い関係を築くことにより特に輸出業や観光面でニュージーランドに利益をもたらすと考えているようだ。

しかしながら、今問題視されている住宅価格の高騰に関して、約4割がアジア人による投資が要因だと回答、昨年より増加した。アンケートには、中国・インド・日本・韓国・東南アジアの人種に対する印象についても聞いており、日本人が最も良い印象を持たれていることがわかった。

### ・NZへの渡航者数が過去最高に（5月）

今年4月までの1年間でNZへの訪問者は296万人、最高記録を更新したと統計局は5月21日に発表した。その中でも初めてNZを渡航したという中国人は30.2万人と昨年と比較し26%も上がっている。そして同じ時期にNZ移住者は56800名とこれも最高記録となり、国別ではインド（12200）、中国（7800）、UK（4600）フィリピン（4000）だった。インド人移住者の約3分の1、中国人移住者の約半数が、学生ビザで入国している。

### ・満足度調査（5月）

ほとんどのニュージーランド人は、現在の生活に満足しているという調査結果が出た。統計局は、

昨年9000人を対象に、住居事情、健康などを含む幸福の意識調査を行った。平均で83%の人々が生活に大満足しており、87%が人生に対する強い目的意識を持っている。特に中高齢者の方が、満足の割合が高いとのこと。これは、経済的により安定しており、仕事と余暇のバランスが取れていることに基づく予想されている。

### ・クライストチャーチ

#### マラソン再開（5月31日）

2015年の地震以来初めて、クライストチャーチのシティマラソンが開催された。凍てつくような寒い朝にもかかわらず、5000人以上のランナーが参加した。スタートとゴールとなったカテドラル・スクエアには、数千人の群衆が集まり、10キロ、ハーフ、フルマラソンを走るランナー達を応援。日本人ランナー、ヒロ・タニモトさんが2時間25分で最初にゴールした走者となった。

### ・なかなか上がらない給料（6月）

昨年昇給があった人の数は著しく少なく、仕事に対する信頼度を大きく低下させる要因となっている。Westpacのある指標に基づく調査結果で、今年6月締め四半期の指標は102.8と、前期に比べ3ポイントも下がっている。指標が100を上回ると、悲観的感覚を抑え、仕事に楽観的な気持ちを持つ。Westpacのチーフ・エコノミストは「労働者の収入が上らないとき、仕事に対する信頼度も低下する、と説明している。「昨年給料が従業員の数は、世界経済危機以来、最も低い数値となっている」と述べた。

### ・NZは世界で4番目に平和な国（7月）

経済平和研究所が発表した最新の世界平和指数で、NZが世界で4番目に平和な国として「ランク付けされた。最も平和な国はアイスランド、次いでデンマーク、3番目がオーストリアで、日本は7番目だった。

「NZ大好き」より

I have got red skin,  
It hurts a lot when I touch,  
Summer holiday

赤い肌 触ると痛い 夏休み

Edward Popham  
Invercargill

2013年、オークランドのジャパン協会  
主催の俳句大会で優勝した少年。  
昨年、千葉へホームステイの招待旅行

## 行事収支報告

(単位:円)

開催日	行事名	参加者	収入	支出	差額
4/18	総会后懇親会	22	66,000	63,431	2,569
4/25	タウマルヌイ 高校生との交流会	27	30,350	30,211	139
5/16	NZビーフ ラム肉例会	32	63,000	60,797	2,203
	合計	81	159,350	154,439	4,911

## 年会費未納の皆様へのお願い

会報4月号で振込を6月末までにお願いましたが、未納の方が数名おられます。

お手数ですが、7月末までに下記へお振込みをお願いいたします。

ゆうちょ銀行に口座を持ちATM利用の場合は、手数料無料です。

他行からはお振込みの際は、店名：ヨンイチハチ 店番：418と手数料が必要です。

金額	3,000円	振込先	ゆうちょ銀行
記号	14110	番号	56529351
普通預金口座	5652935	名義	日本ニュージーランド協会(関西)
ご協力よろしく申し上げます。			

